

平成17年 東京都のHIV感染者・AIDS患者の動向及び 検査・相談事業の実績

HIV感染者・AIDS患者の発生動向

- ・ HIV感染者・AIDS患者を合わせた報告数は平成17年も増加し、過去最高となった。(図-1)
- ・ 全国の報告数に占める東京都の割合は、HIV感染者で約4割、AIDS患者は約3割であった。(図-5)
- ・ HIV感染者・AIDS患者を合わせた報告数は、日本国籍男性が最も多く、HIV感染者では、日本国籍男性が増加し、AIDS患者では、日本国籍男性は前年より減少した。(図-6)
- ・ 推定感染経路では、HIV感染では、同性間性的接触が増加しており、AIDS患者も、同性間性的接触が異性間性的接触を上回っている。(図-7)
- ・ HIV感染者・AIDS患者とも、20、30歳代では同性間性的接触の割合が多く、60歳以上では異性間性的接触または、不明・その他の割合が高い。(図-9)
- ・ HIV感染者報告は20、30歳代で多く、AIDS患者報告は30、40、50歳代に多い。(図-10)
- ・ 推定感染地域では、国内での感染が多く、増加している。(図-11)
- ・ AIDS患者では、ニューモシスチス肺炎(カリニ肺炎)発症を契機とする報告が約半数を占めている。(表-1)
- ・ 免疫機能障害による障害者手帳の交付数は増加しており、HIV感染者・AIDS患者を合わせた累積報告数の半数以上の数がある。(図-12)

検査・相談事業

- ・ 東京都でのエイズ電話相談件数は近年で最も多くなっている。(図-16)
- ・ 電話相談は、男性に多く、年齢では20歳代が多い。(図-17)
- ・ 電話相談内容の多くは、感染不安や感染経路に関するものが多い。(図-18)
- ・ 東京都南新宿検査・相談室及び都内の保健所のHIV検査件数は、近年増加傾向にある。(図-19)
- ・ 東京都南新宿検査・相談室及び都保健所のHIV検査の陽性件数及び陽性率は、長期的に見ると増加傾向にあるものの、前年よりも減少した。(図-20)
- ・ 都内の保健所のHIV検査では、10歳代及び50歳以上の女性の検査件数が多く、東京都南新宿検査・相談室と比較しても多い。(表-3、図-21)

性感染症検査の実績

- ・ クラミジア抗体陽性件数は女性に多く、梅毒陽性件数は男性に多い。(表-4)
- ・ 東京都健康安全研究センター検査分の女性のクラミジア抗体検査陽性率は概ね30%であった。(図-24)

本「AIDS News Letter No.110(資料編)」は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて、東京都に平成17年に法定報告されたHIV感染者とAIDS患者の統計及び区・都の保健所等における相談・検査業務の実績をまとめ、分析したものである。

なお、HIV感染者・AIDS患者の報告数、相談件数、検査件数については、過去のデータを見直し、更新されている。HIV感染者とAIDS患者を合わせたものを示すときは、HIV/AIDSとして示した。

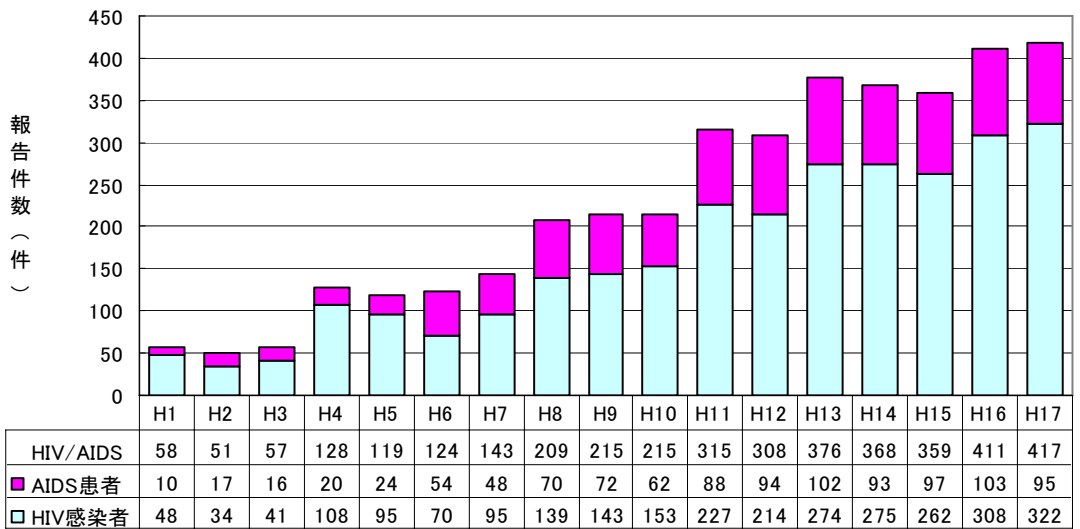
図表中では、平成をH、平成元年をH1、東京都南新宿検査・相談室を南新宿と記載した。また、特別区保健所と東京都の保健所を合わせて、都内の保健所と表現した。

1 . HIV 感染者及び AIDS 患者の発生動向

図-1
東京都の HIV 感染者及び AIDS 患者報告数の及び年次推移

ひとくち
×ME

HIV 感染者； HIV(ヒト免疫不全ウイルス)が体内に入り、「感染」した状態になっているが、「発症(何らかの身体的症状があること)」していない状態

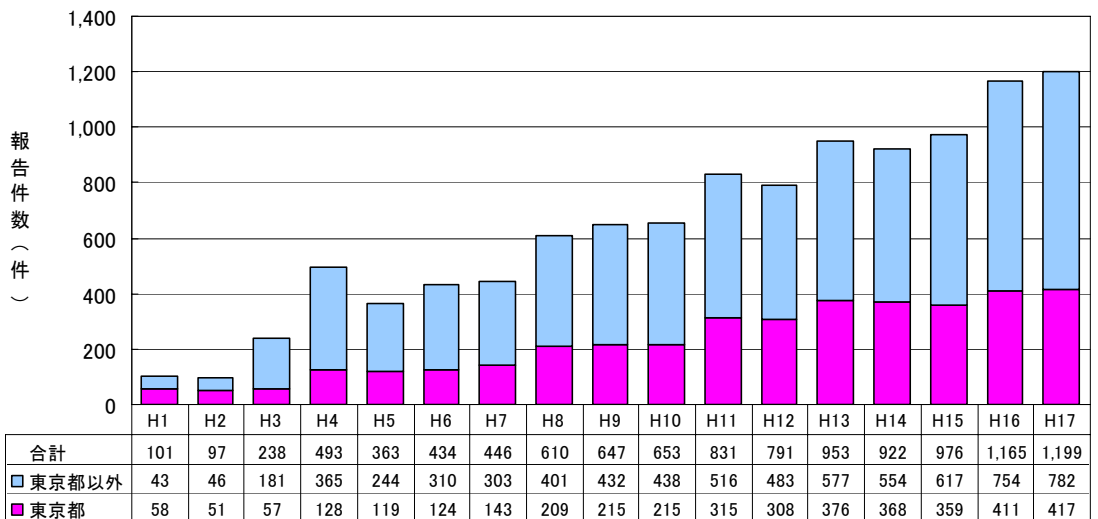


東京都における HIV 感染者・AIDS 患者合わせた報告数は、平成 17 年は過去最高の 417 件となった。HIV 感染者報告数は 322 件と過去最高であったが、AIDS 患者報告数は微減した。

図-2
東京都及び全国の HIV/AIDS 報告数の年次推移

ひとくち
×ME

エイズ動向委員会；厚生労働省の疫学の専門家などからなる委員会。年 4 回、全国の HIV 感染者・AIDS 患者報告を発表している。

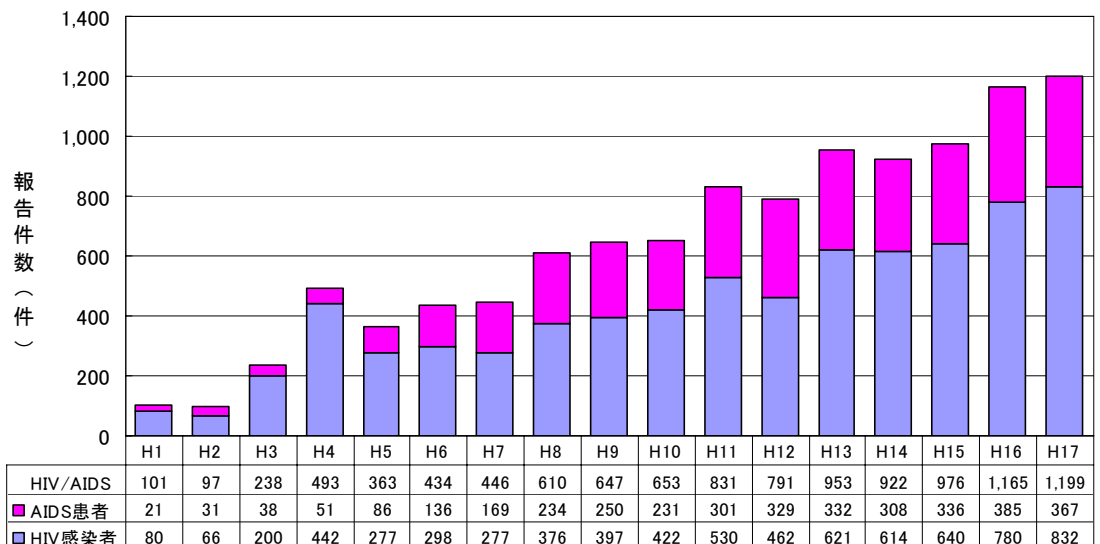


東京都、東京都以外とも HIV/AIDS 報告数は増加した。東京都からの報告は、全国の 3 分の 1 以上を占めている。
(平成 17 年の全国の報告数は、エイズ動向委員会平成 18 年 4 月 28 日発表の数値。)

図-3
全国の HIV 感染者及び AIDS 患者報告数の年次推移

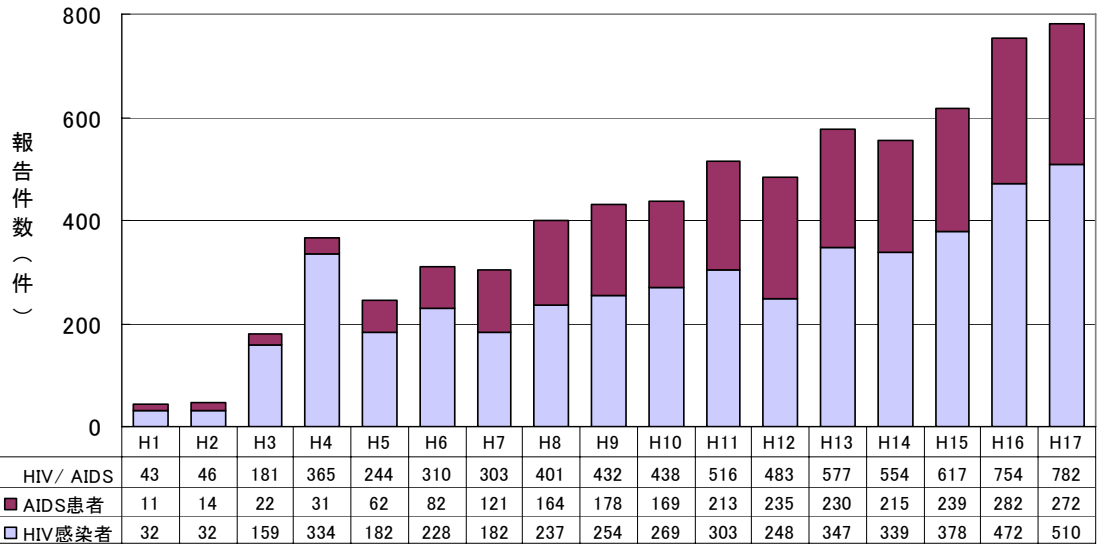
ひとくち
×ME

AIDS 患者； HIV により免疫機能が低下し、「指標疾患」と呼ばれる決められた疾患の症状が認められた場合。無治療の場合、感染から症状が出るまで、数年から 10 数年かかるといわれている。



平成 17 年全国において、HIV 感染者・AIDS 患者合わせた報告数は過去最高となった。HIV 感染者報告数は増加し過去最高となったが、AIDS 患者報告数は微減した。

図-4
東京都以外の
HIV感染者及び
AIDS患者報告数
の年次推移



東京都以外の道府県においても、HIV感染者・AIDS患者合わせた報告数とHIV感染者報告数は増加傾向にあるが、AIDS患者報告は前年より微減した。

図-5(1)
全国に占める東京
都の HIV 感染
者報告数の割合
の年次推移

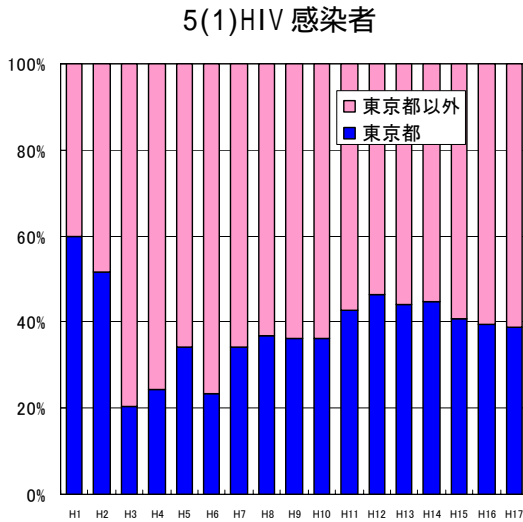
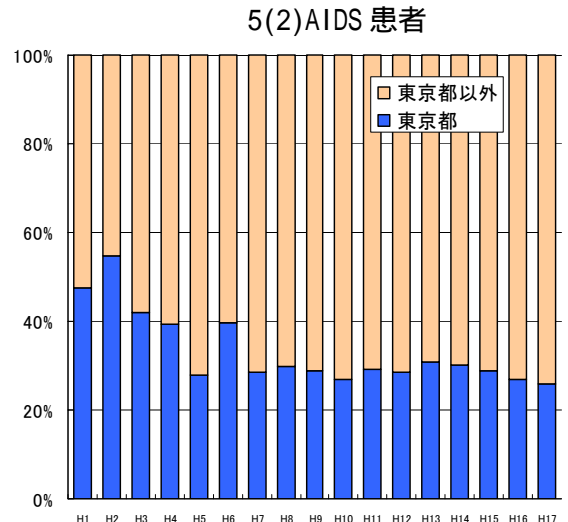
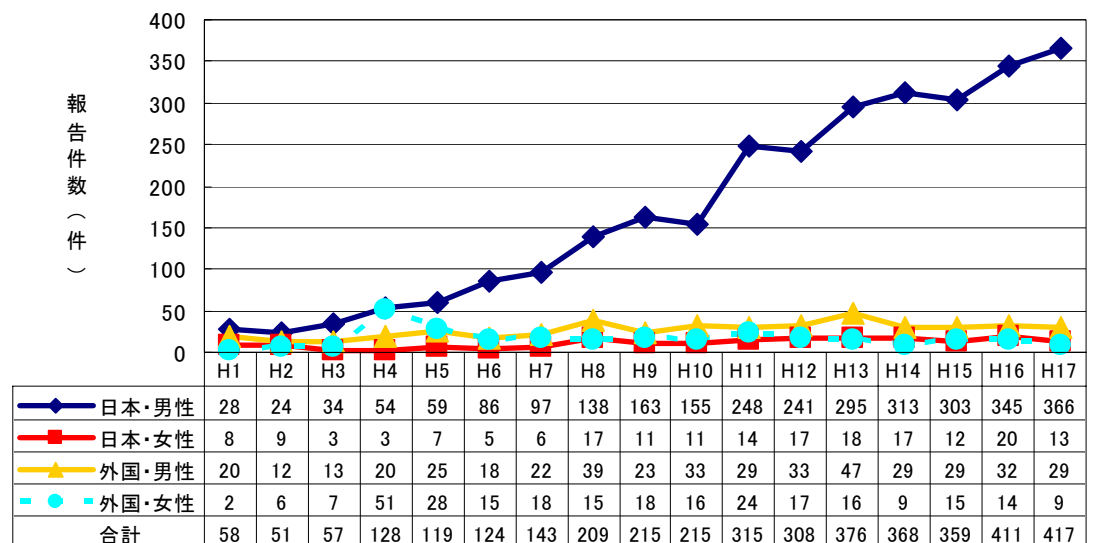


図-5(2)
全国に占める東京
都の AIDS 患者
報告数の割合の
年次推移



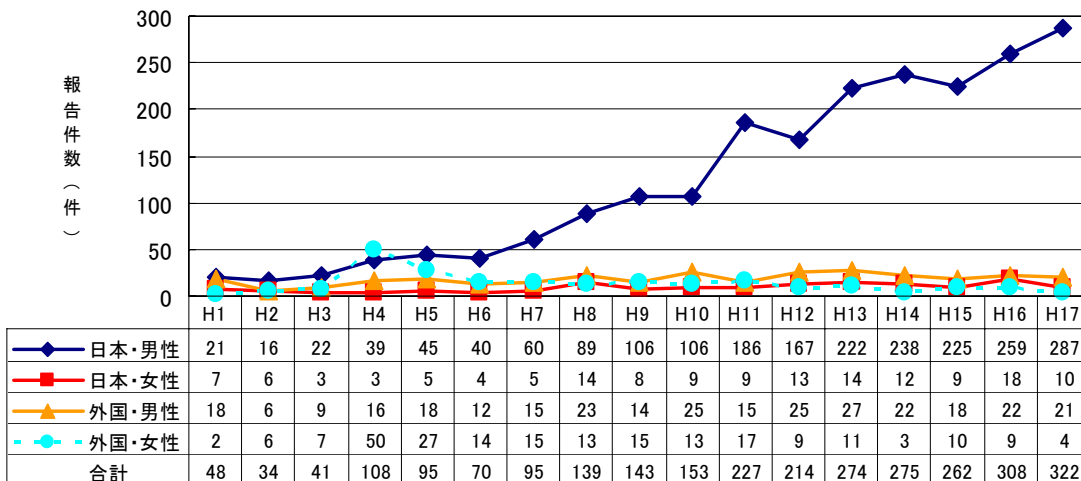
東京都のHIV感染者報告数は全国の約4割、AIDS患者報告数は全国の約3割で推移している。道府県は、東京都に比べAIDS患者が占める割合が多いことから、東京都ではAIDS発症前に発見される件数が、道府県よりも多いことが考えられる

図-6(1)
東京都の
HIV/AIDSの国籍
別、性別報告数
の年次推移



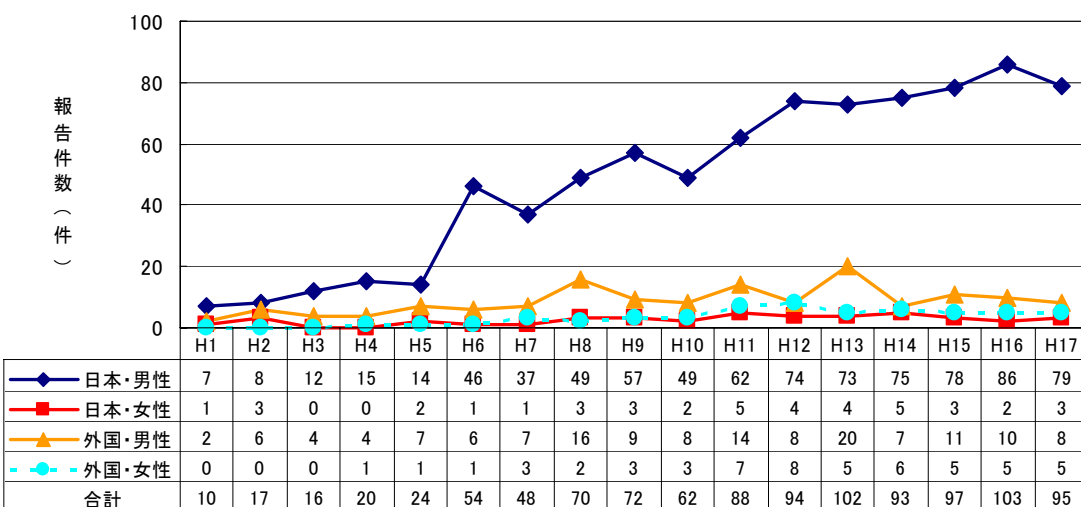
HIV感染者・AIDS患者報告数は、平成5年以降の日本国籍男性で伸びている。日本国籍女性、外国国籍男性、外国国籍女性は、ほぼ横ばいである。

図-6(2)
東京都の HIV 感
染者の国籍別、
性別報告数の
年次推移



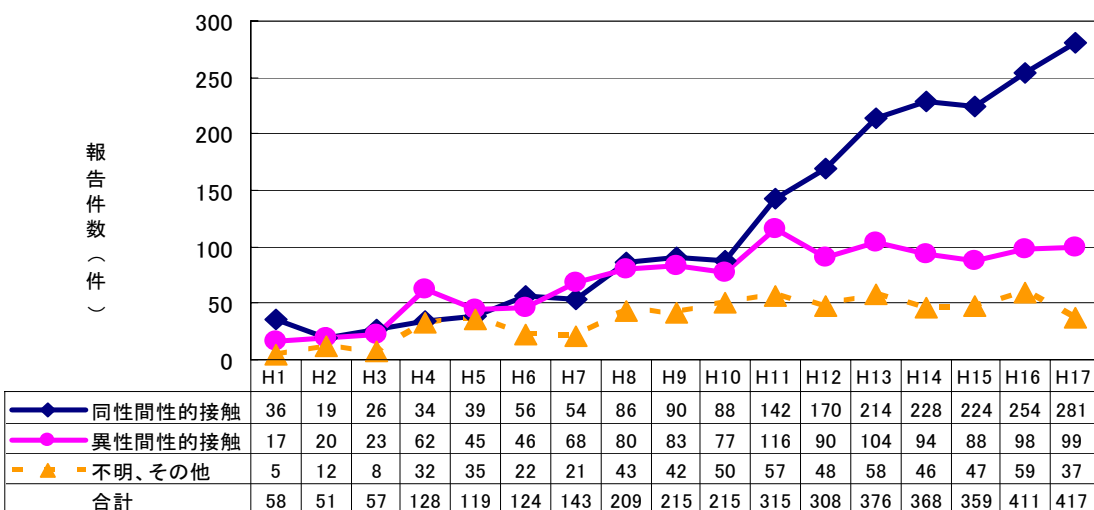
HIV 感染者報告数では、平成 12 年以降の日本国籍男性の伸びが著しい。近年、日本国籍女性の報告数は、外国国籍女性より若干多くなっている。

図-6(3)
東京都の AIDS
患者の国籍別、
性別報告数の
年次推移



AIDS 患者報告数は、日本国籍男性で平成 7 年以降に増加しており、平成 17 年は微減した。日本国籍女性や外国国籍では、大きな変化はない。

図-7(1)
東京都の
HIV/AIDS の推定
感染経路別報告
数の年次推移



同性間性的接触による感染報告数は、依然として増加しており、過去最高となった。異性間性的接触による感染報告数は、ここ数年横ばいである。

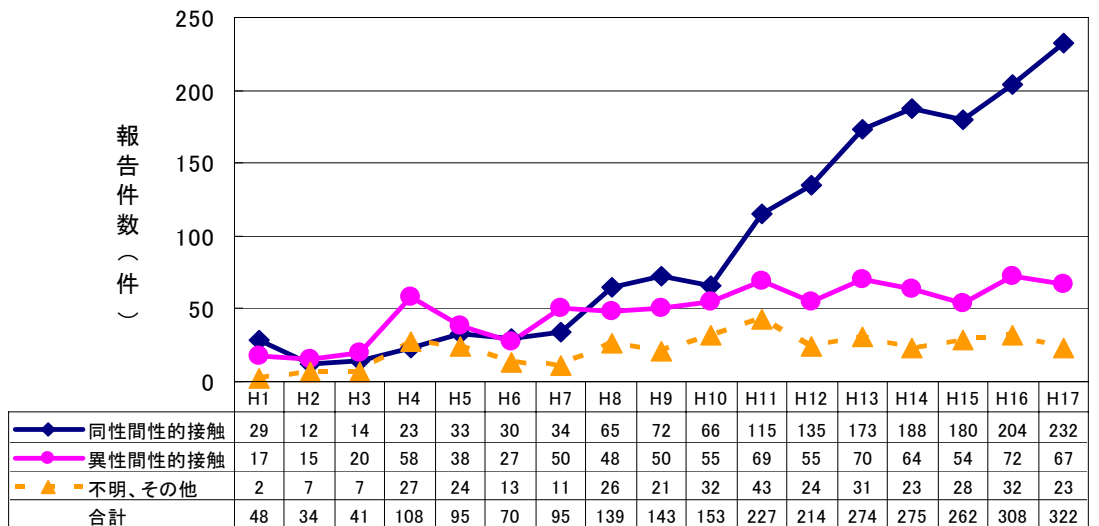
ひとくち
×ME

AIDS 患者報告；
新たに AIDS 患者
として報告された
数のみ。
HIV 感染者として
報告された人が
AIDS を発症した場
合は、「エイズ病
原体感染者報告票
(病状に変化を生
じた事項に関する
報告)」で任意報告
を行い、AIDS 患者
報告には含まれな
い。

ひとくち
×ME

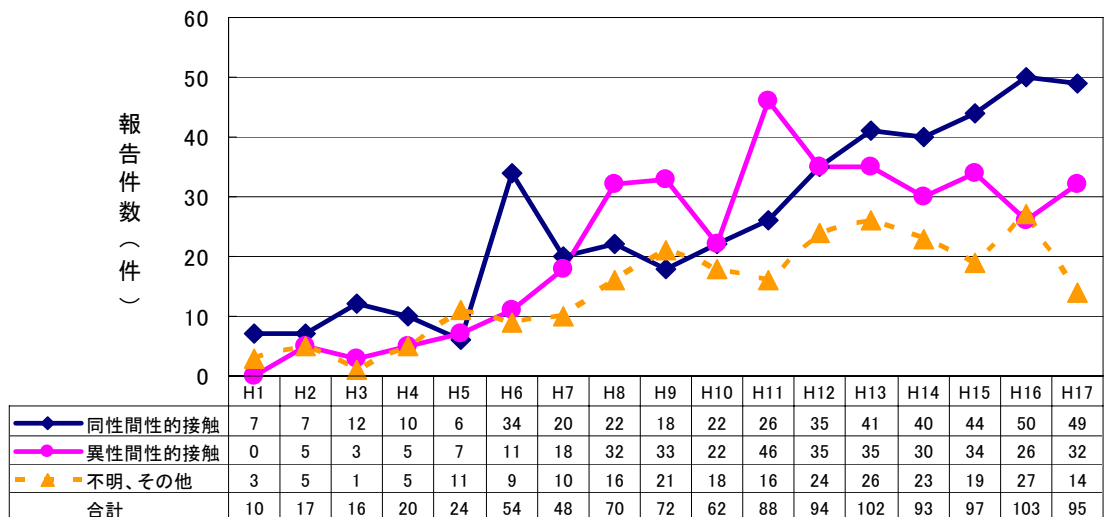
不明、その他；
静注薬物濫用・可
能性のある感染経
路が複数あるケー
ス、不明が含まれる。

図-7(2)
HIV 感染者の推定
感染経路別報告
数の年次推移



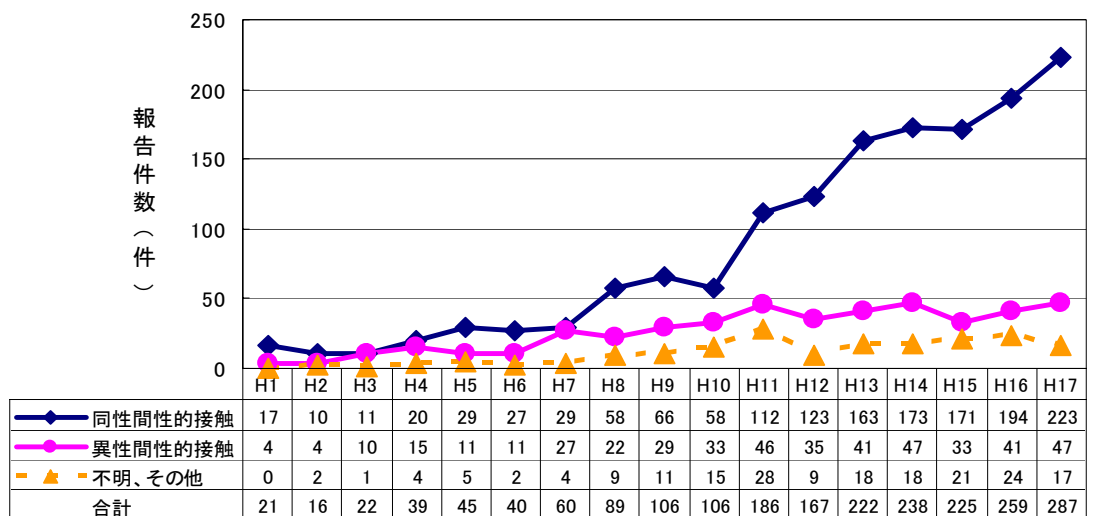
HIV 感染者報告数では、同性間性的接触による感染が増加している。平成 17 年の異性間性的接触による感染と不明、その他は前年より微減した。

図-7(3)
AIDS 患者の推定
感染経路別報告
数の年次推移



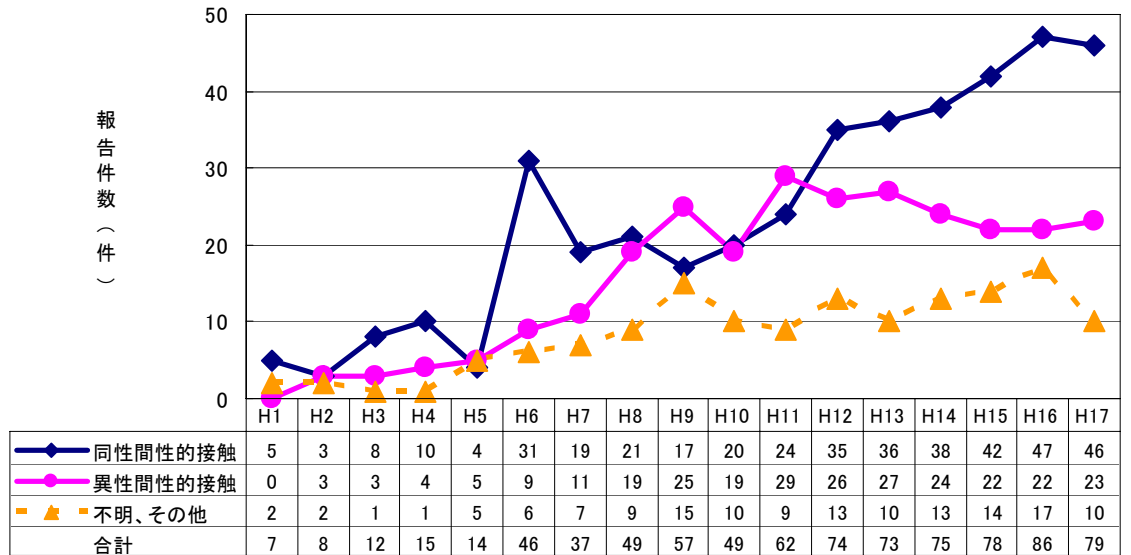
平成 13 年以降、同性間性的接触による AIDS 患者報告数は、異性間性的接触によるものを上回っている。同性間性的接触と異性間性的接触による AIDS 患者報告数の差は、HIV 感染者における差に比べ少ない。

図-8(1)
日本国籍男性に
おける HIV 感染者
の推定感染経路
別報告数の年次
推移



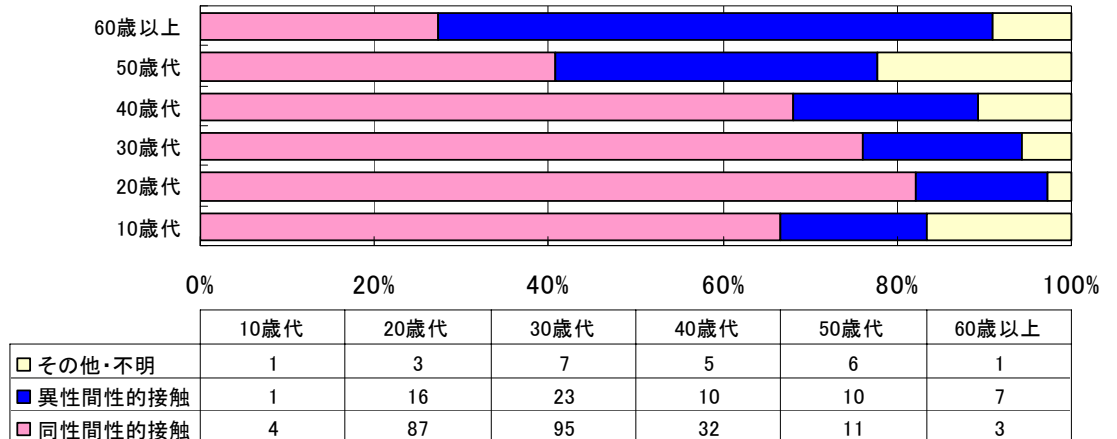
HIV 感染者報告数の伸びが最も大きい日本国籍男性でみると、平成 11 年から同性間性的接触による感染が増加している。一方、異性間性的接触による感染は、近年横ばいである。

図-8(2)
日本国籍男性における AIDS 患者の推定感染経路別報告数の年次推移



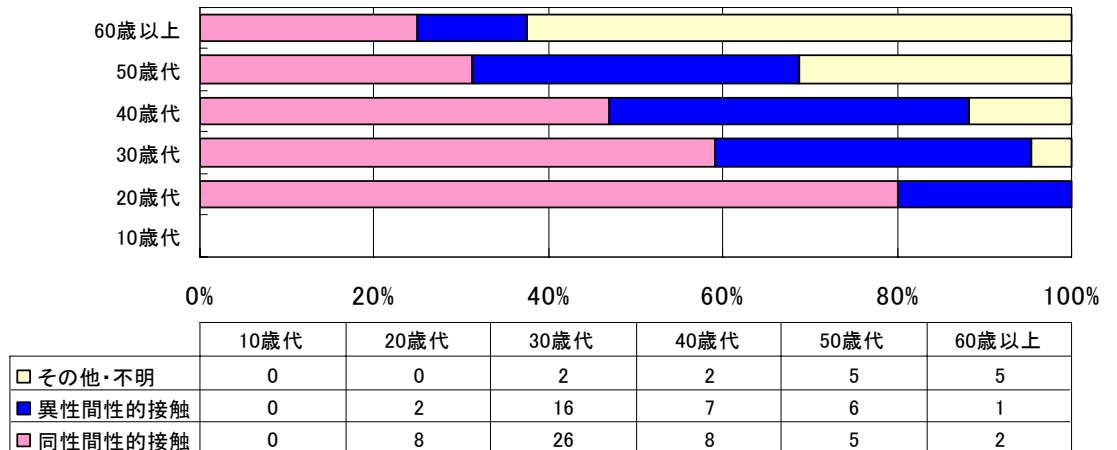
AIDS 患者報告数が最も多い日本国籍男性で見ると、平成 12 年以降、常に同性間性的接触による感染報告が異性間性的接触によるものを上回るようになってきている。

図-9(1)
東京都の HIV 感染者の年齢別感染経路 (平成 17 年)



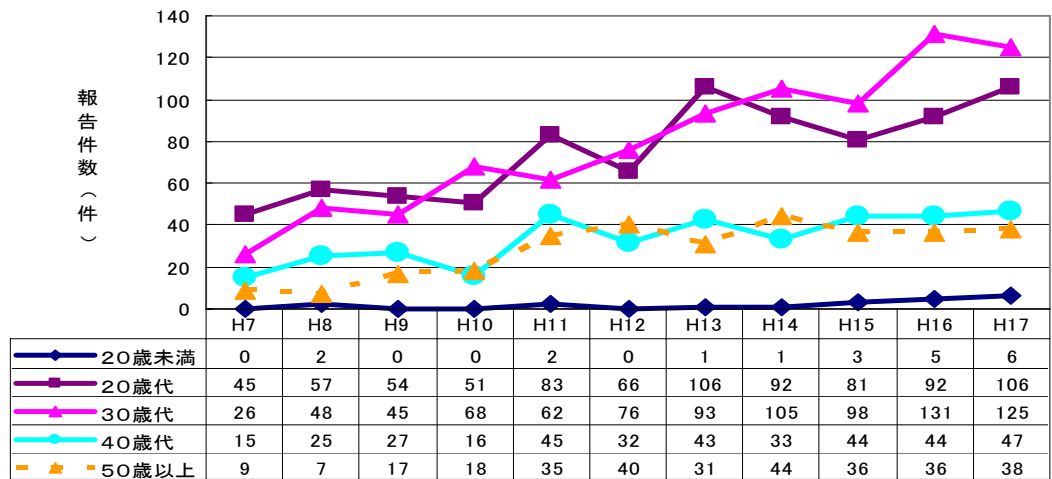
10～40 歳代は、同性間性的接触による感染が多く、60%以上を占めている。50 歳代では、同性間、異性間で大きな差はなく、60 歳代以上は、異性間性的接触による感染が多い。なお、平成 17 年の 10 歳未満の HIV 感染者報告は、なかった。

図-9(2)
東京都の AIDS 患者の年齢別感染経路 (平成 17 年)



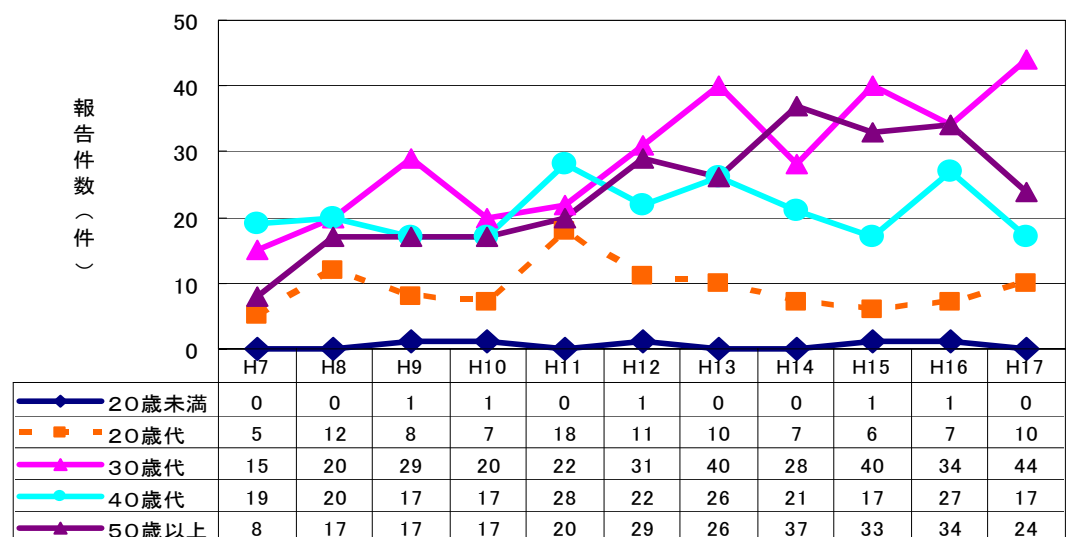
年代が若いほど同性間性的接触による感染割合が多く、年代が高いほどその他・不明の割合が高い。また、すべての年代で、HIV 感染者に比べ同性間性的接触の割合が低い。なお、平成 17 年の 10 歳代及び 10 歳未満の AIDS 患者報告は、なかった。

図-10(1)
東京都のHIV感染者の年齢別報告数の年次推移



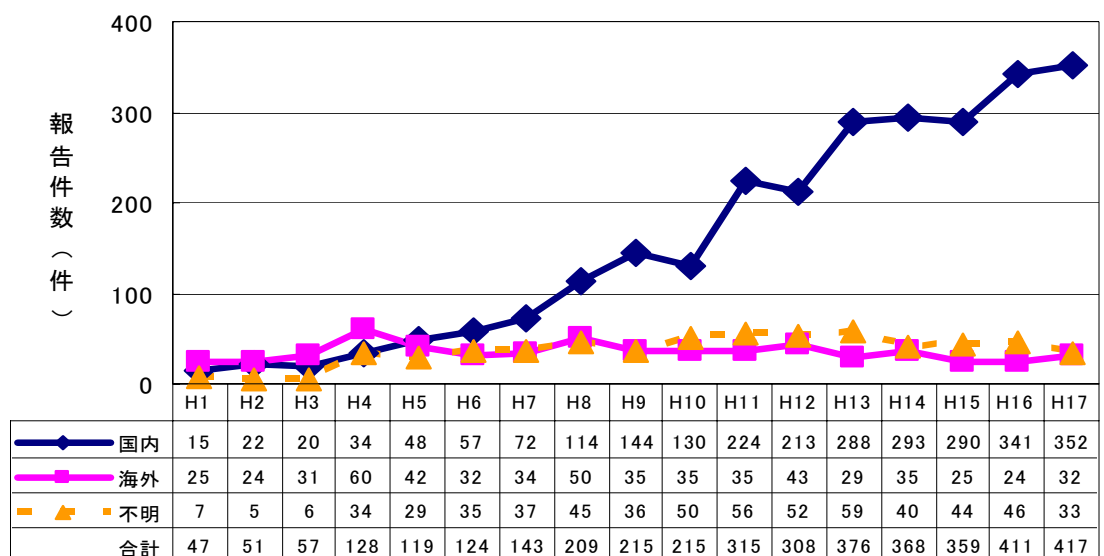
HIV感染者報告数は、今後社会を担う20歳代及び30歳代で増加傾向にあり、平成15年以降、20歳未満も微増している。20歳代、30歳代での感染が今後拡大すると、社会的損失も危惧されることから、若い世代の予防啓発が重要である。

図-10(2)
東京都のAIDS患者の年齢別報告数の年次推移



AIDS患者報告数は、働き盛りである30～50歳代が多い。平成17年は、40歳代以上は前年より減少したが、20、30歳代では前年よりも増加している。20歳以上の年代への早期検査につながる情報提供が必要である。

図-11
東京都のHIV/AIDSの推定感染地別報告数の年次推移



推定感染地の多くが国内であり、国内の件数が増加している。海外を推定感染地とする報告数は、前年より微増した。一方、不明とする報告数は減少した。

表-1
東京都の AIDS 患者報告の診断した指標疾患

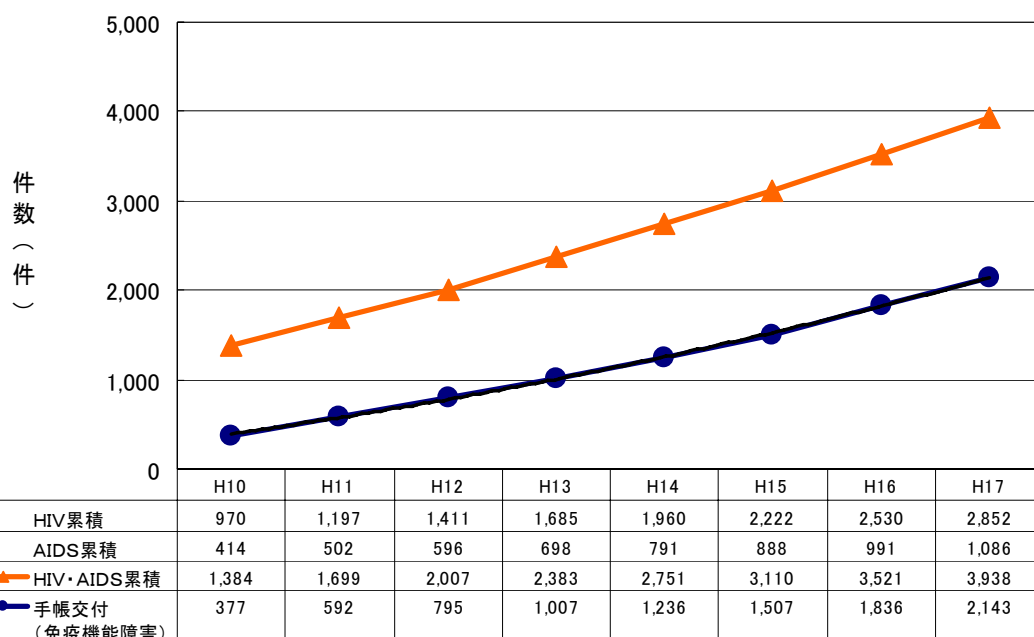
AIDS と診断した指標疾患	H15		H16		H17	
	報告件数	割合	報告件数	割合	報告件数	割合
カンジダ症	30	30.9%	26	25.2%	16	16.8%
クリプトコッカス症	2	2.1%	0	-	2	2.1%
カリニ肺炎	48	49.5%	58	56.3%	52	54.7%
トキソプラズマ脳症	3	3.1%	0	-	4	4.2%
クリプトスポリジウム症	3	3.1%	0	-	0	-
化膿性細菌感染症	0	-	1	1.0%	0	-
活動性結核	9	9.3%	10	9.7%	8	8.4%
非定型抗酸菌症	2	2.1%	1	1.0%	0	-
サイトメガロウイルス感染症	8	8.2%	8	7.8%	17	17.9%
単純ヘルペスウイルス感染症	3	3.1%	2	-	3	-
進行性多巣性白質脳症	0	-	1	1.0%	2	2.1%
カポジ肉腫	6	6.2%	10	9.7%	5	5.3%
原発性脳リンパ腫	1	1.0%	0	-	0	-
非ホジキンリンパ腫	2	2.1%	3	2.9%	4	4.2%
反復性肺炎	1	1.0%	0	-	0	-
リンパ性間質肺炎	1	1.0%	0	-	1	1.1%
HIV 脳症	2	2.1%	5	4.9%	2	2.1%
HIV 消耗性症候群	6	6.2%	7	6.8%	3	3.2%
合計	127		132		119	
AIDS 患者報告数	97		103		95	

ひとくちメモ

指標疾患；
AIDS と診断する際の 23 の定められた疾患。
カンジダ症などの真菌症、トキソプラズマ脳症などの原虫症、活動性結核などの細菌性感染症、サイトメガロウイルス感染症などのウイルス感染症、カポジ肉腫などの腫瘍、その他 HIV 脳症などがある。

約半数が、ニューモシチス肺炎（カリニ肺炎）により AIDS が診断されている。次いで、サイトメガロウイルス感染症、カンジダ症、活動性結核、カポジ肉腫が多くなっている。平成 17 年は前年に比べ、サイトメガロウイルスが 10% 増加し、カンジダ症が約 10% 減少した。なお、指標疾患を重複して発症している場合もあり、AIDS 患者報告数と合計は一致しない。また、報告のなかった指標疾患は、表に記載していない。

図-12
東京都の HIV 感染者・AIDS 患者累積報告数と身体障害者手帳交付数（免疫機能障害）



ひとくちメモ

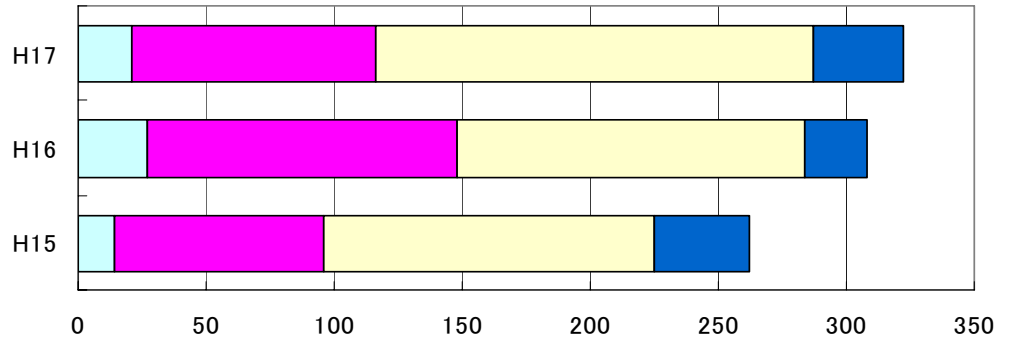
身体障害者手帳（免疫機能障害）；平成 10 年 4 月に「ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害」による身体障害者認定が施行され、手帳交付が始まった。

HIV 感染者・AIDS 患者報告数の累積件数の増加に伴い、障害の程度に交付される身体障害者手帳の毎年 12 月末時点での交付数（毎年 12 月末に手帳を所持している人数と一致）が増加している。

図-13
東京都のHIV感染者の医療機関別の届出数

ひとくち
XME

エイズ診療拠点病院；
エイズに関する総合的かつ高度な医療を提供する病院。平成18年3月現在、東京都内には、42のエイズ診療拠点病院がある。
図表中では「拠点病院」とした。



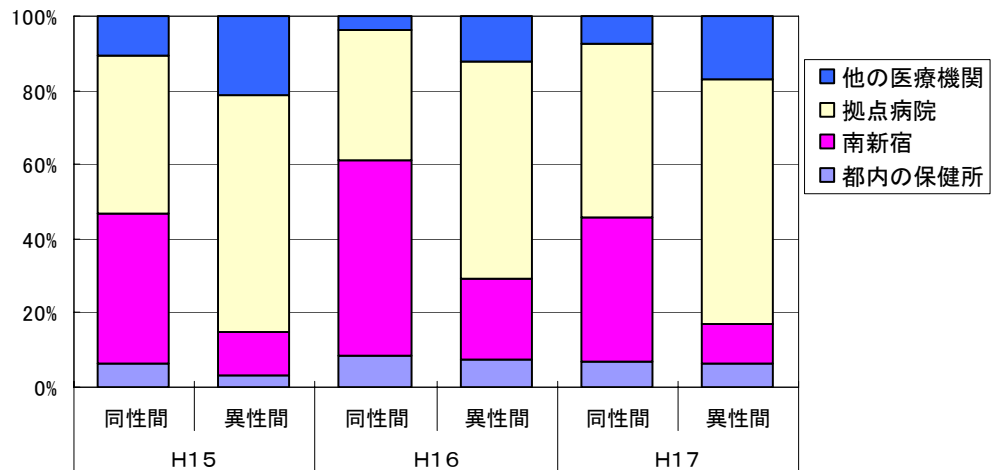
	H15	H16	H17
他の医療機関	37	24	35
拠点病院	129	136	171
南新宿	82	121	95
都内の保健所	14	27	21

平成17年は、HIV感染者報告数(保健所等を含む医療機関からの届出のうち無症候性キャリアとその他のもの)のうち、都内の保健所と東京都南新宿検査・相談室を合わせた届出が全体の3分の1以上を占めており、自発的な保健所等での受検が早期発見にある程度寄与していると考えられる。また、エイズ診療拠点病院(以下、拠点病院)からの報告数も多い。

図-14
日本国籍男性 HIV感染者における推定感染経路(不明・その他を除く)別の届出医療機関別割合

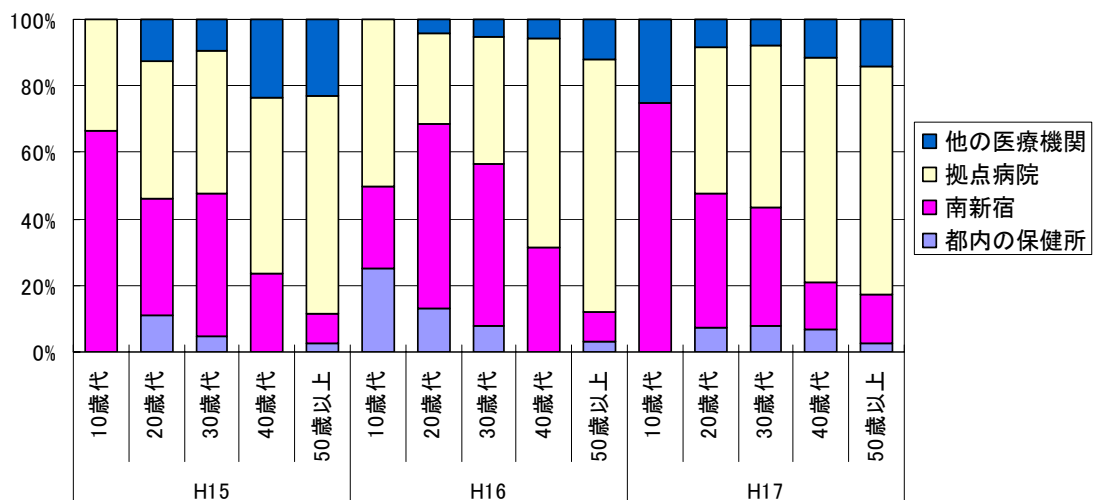
ひとくち
XME

後天性免疫不全症候群の届出；
「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」では、後天性免疫不全症候群を診断した医師は、最寄の保健所長を経由して、都道府県知事に届け出なければならない、としている。



HIV感染者報告数の多い日本国籍男性において、推定感染経路が同性間性的接触では、異性間と比較し、都内の保健所及び東京都南新宿検査・相談室からの報告が多く、異性間性的接触では、拠点病院からの報告の割合が高い。日本国籍男性で、同性間性的接触を感染不安とする人は、自発的に保健所等で検査を受けてHIV感染を知る場合が多い。

図-15
日本国籍男性 HIV感染者における年齢別の届出医療機関別割合



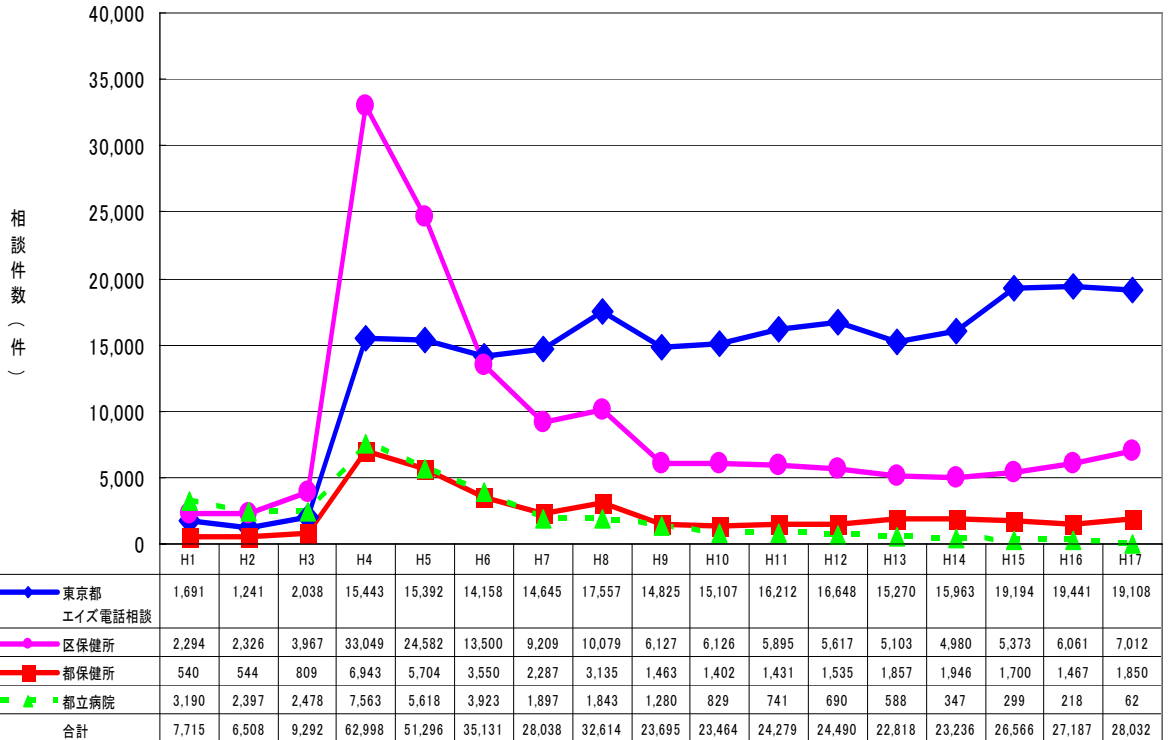
HIV感染者報告数の多い日本国籍男性において、若い世代では、都内の保健所及び東京都南新宿検査・相談室からの報告が多く、年代が高くなるにつれて、拠点病院からの報告の割合が高い。若い年代では、自発的に保健所等で検査を受けてHIV感染を知る場合が多い。

2. 相談・検査体制

図-16
東京都のエイズ
電話相談件数の
年次推移

ひとくち
メモ

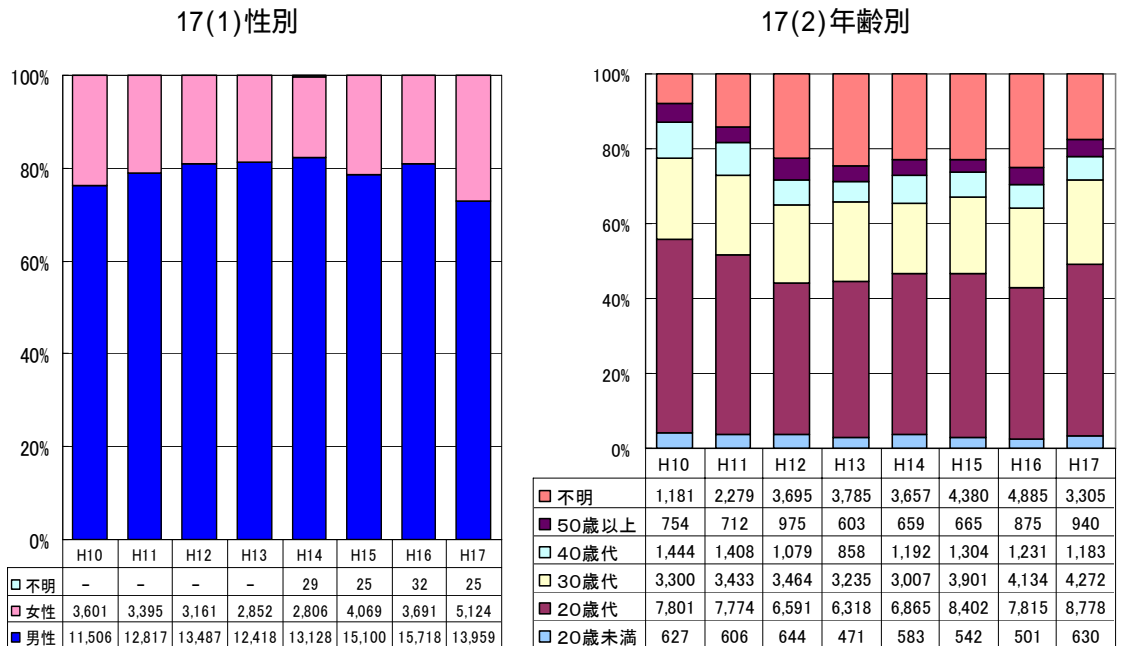
「平成4年」;
AIDS患者・HIV感染者が増加し、社会的な問題となった。マスコミ等でエイズが大きく取り上げられ、国や自治体をあげたキャンペーンが行われた。東京都でも「東京都エイズ対策基本方針」を策定し、「エイズ対策室」が組織化された年。



エイズが大きな社会問題となった平成4年には電話相談件数が、一時的に急増した。その後減少し、ここ数年横ばいであったが、平成15年以降増加し、平成17年は全体で28,000件を超えた。
なお、「東京都エイズ電話相談」は、平成10年度以前はエイズ対策係で行っていた電話相談の件数が含まれている。平成11年度以降は、すべて「東京都エイズ電話相談」の件数である。

図-17(1)
「東京都エイズ
電話相談」の性別
の年次推移

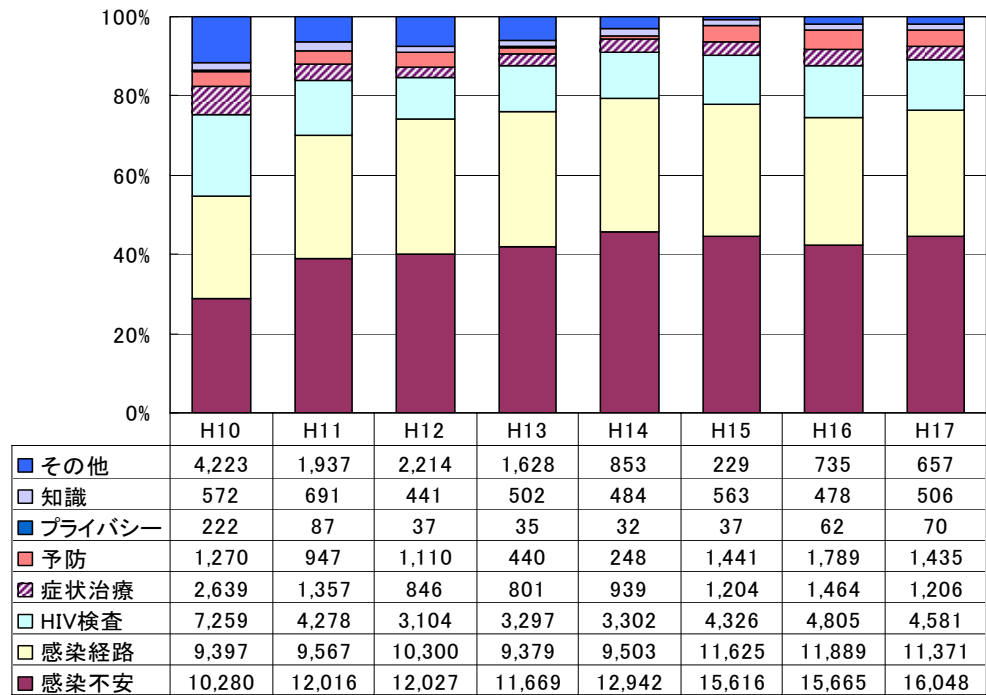
図-17(2)
「東京都エイズ
電話相談」の年齢
別の年次推移



男女の別では、約8割が男性で推移していたが、平成17年は女性からの相談が増加し、男性が約7割となった。
年齢別では、20歳代の相談が最も多い。HIV感染者報告の多い20、30歳代からの相談が、概ね6割以上を占め、これらの年代からの相談件数も増加している。

図-18

「東京都のエイズ電話相談」の相談内容の年次推移



東京都エイズ電話相談の相談内容は、感染不安と感染経路に関するものが多い。相談内容は多岐にわたり、重複しているものが多い。

表-2

「東京都のエイズ電話相談」を知った情報源

情報源	H16	H17
ネット	9,553	10,662
モバイル	547	690
ラジオ・テレビ	99	128
新聞	81	111
口コミ	272	217
本・雑誌	659	363
電話帳・104	760	381
ポスター	123	122
行政広報	119	137
保健所	611	854
南新宿	340	344
パンフレット	622	681
その他	440	437
不明	5,215	3,984

東京都エイズ電話相談についての情報源では、ネットが最も多く、増加している。次いで、保健所からの紹介、モバイル、パンフレットによるものが多い。また、平成16年には、雑誌広告を行ったため平成17年よりも多く、平成17年は、ラジオ・テレビでのコマーシャルを行ったことから、前年より増加した。不明が、前年よりも減少した。

ひとくちメモ

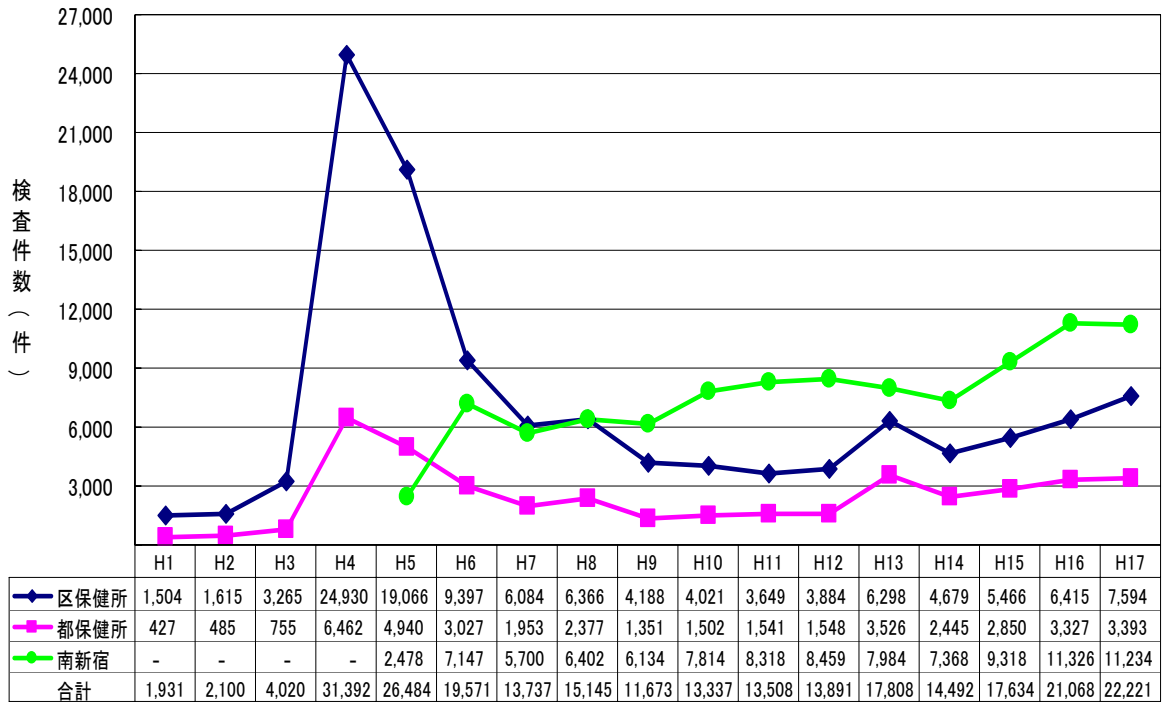
東京都エイズ電話相談；
03-3292-9090 平日
午前9時から午後9
時までと、土・日・
祝日は午後2時から
5時までエイズ相談
に応じている。

図-19

東京都のHIV検査件数の年次推移

ひとくち
ME

東京都南新宿検査・相談室；新宿駅南口すぐそばに位置する無料・匿名でHIV検査が受けられる検査機関。平成5年9月に平日夜間の検査が開始され、平成15年4月より、土日の午後も検査を開始した。事業は、東京都医師会に委託している。



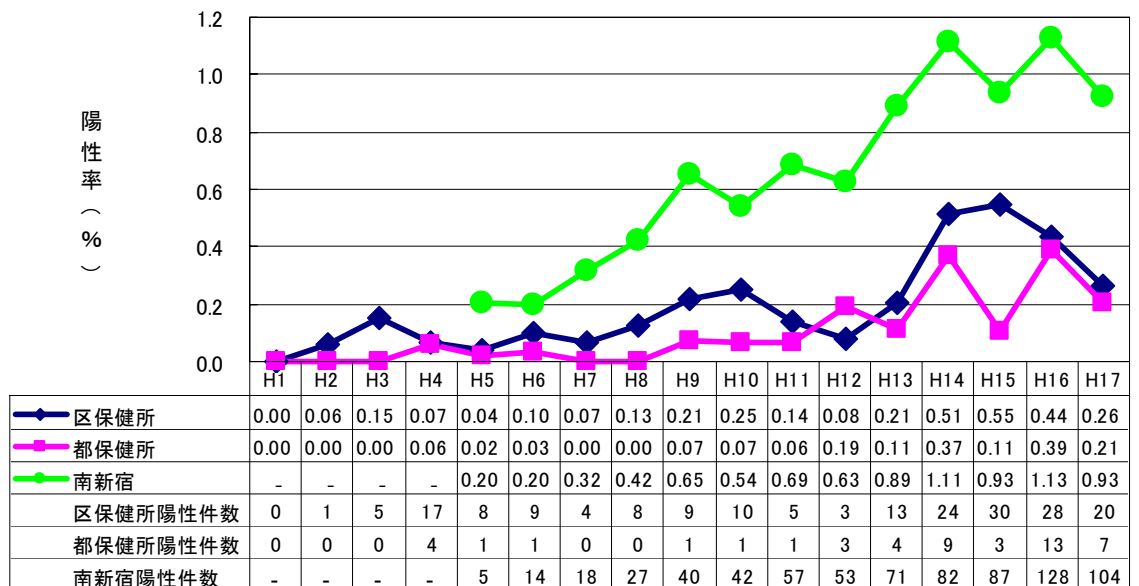
都内の保健所の検査件数は、平成4年エイズが社会問題となった後減少したが、平成15年以降増加し、平成17年は、ここ数年間では、最多となっている。東京都南新宿検査・相談室の検査件数は、平成10年以降横ばいであったが、土・日曜日の検査を開始した平成15年から増加し、平成16年以降11,000件を超え、平成17年は微減している。なお、平成13年5月～10月に、都内の保健所ではHIV検査時に希望者にはC型肝炎ウイルス抗体検査が無料匿名で行われたため、平成13年の都内の保健所での検査件数は、一時的に増加した。

図-20

東京都のHIV検査の陽性率・陽性件数の年次推移

ひとくち
ME

保健所；東京都内の保健所には、23区内の特別区の保健所と、多摩・島しょ地域の東京都の保健所がある。ここでは、特別区の保健所を「区保健所」、東京都の保健所を「都保健所」とし、両者をさす場合は、「都内の保健所」とした。



平成17年は、すべての検査機関で前年よりも陽性率が減少したが、都内の保健所での検査件数が多かった平成4、5年に比べると、陽性率が高くなっている。東京都南新宿検査・相談室の陽性率は、1%を下回ったものの高い水準で推移しており、陽性件数は104件と100件を超えている。

表-3
東京都の HIV 検査数及び陽性件数の性別・年齢別の年次推移
(平成 15 年から 17 年まで)

		平成 15 年		平成 16 年		平成 17 年	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性
区保健所	20 歳未満	74(1)	120(0)	70(0)	164(0)	132(0)	201(0)
	20 歳代	1,196(15)	1,135(0)	1,469(8)	1,333(1)	1,711(7)	1,605(0)
	30 歳代	1,295(6)	573(0)	1,543(11)	683(2)	1,730(7)	798(0)
	40 歳代	450(5)	139(0)	514(3)	134(0)	615(3)	177(0)
	50 歳代	250(3)	40(0)	255(1)	50(0)	311(0)	62(1)
	60 歳以上	170(0)	18(0)	164(2)	30(0)	213(2)	28(0)
	不明	4(0)	2(0)	5(0)	1(0)	9(0)	2(0)
	都保健所	20 歳未満	56(0)	178(0)	92(2)	181(0)	76(0)
20 歳代	771(0)	625(0)	898(5)	685(0)	887(3)	745(0)	
30 歳代	611(2)	192(0)	768(3)	214(0)	736(4)	239(0)	
40 歳代	179(0)	52(0)	224(2)	37(0)	279(0)	52(0)	
50 歳代	84(1)	25(0)	108(0)	21(0)	112(0)	23(0)	
60 歳以上	63(0)	14(0)	74(0)	16(1)	73(0)	16(0)	
不明	0(0)	0(0)	6(0)	3(0)	2(0)	2(0)	
南新宿	20 歳未満	113(2)	134(0)	147(1)	208(0)	147(3)	205(0)
	20 歳代	2,573(29)	1,803(1)	3,185(49)	2,057(4)	2,935(41)	2,246(0)
	30 歳代	2,633(39)	685(2)	3,251(60)	801(0)	3,082(47)	887(0)
	40 歳代	826(11)	95(0)	991(11)	101(0)	1,038(8)	120(0)
	50 歳代	310(3)	10(0)	389(3)	26(0)	408(4)	20(0)
	60 歳以上	121(0)	15(0)	158(0)	12(0)	136(1)	10(0)
	不明	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

(カッコ内は陽性件数)

検査件数で見ると、男性は、区保健所、東京都南新宿検査・相談室では、30 歳代が多く、都保健所では、20 歳代が多い。女性は、いずれの検査機関も、20、30 歳代に多く、ここ数年増加している。陽性件数は、ほとんどが男性で、20、30 歳代に多い。

図-21(1)
東京都の性別・年齢別 HIV 検査件数
(平成 17 年)

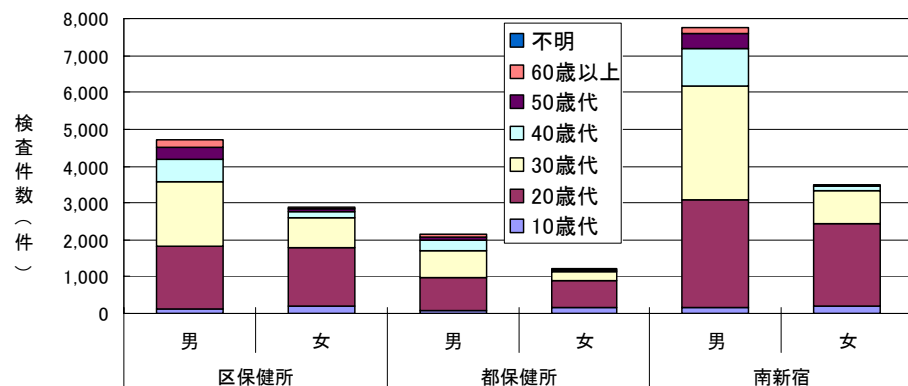
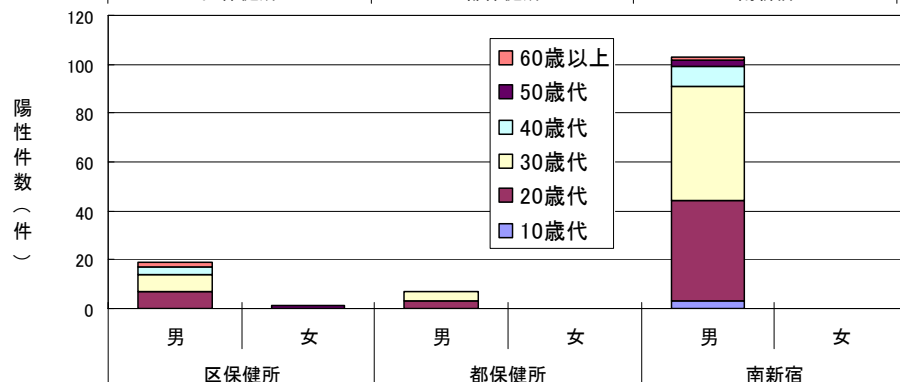
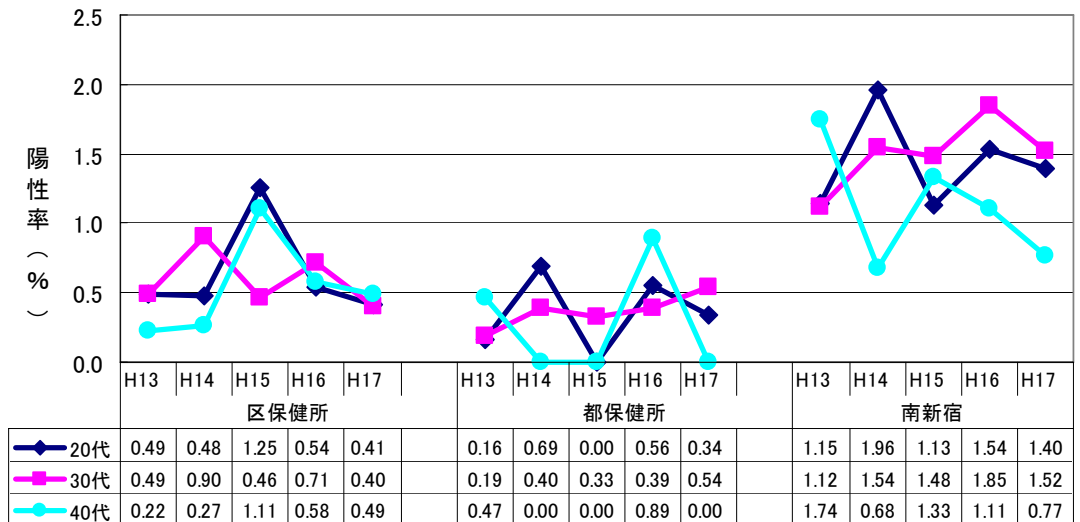


図-21(2)
東京都の性別・年齢別 HIV 検査陽性件数
(平成 17 年)



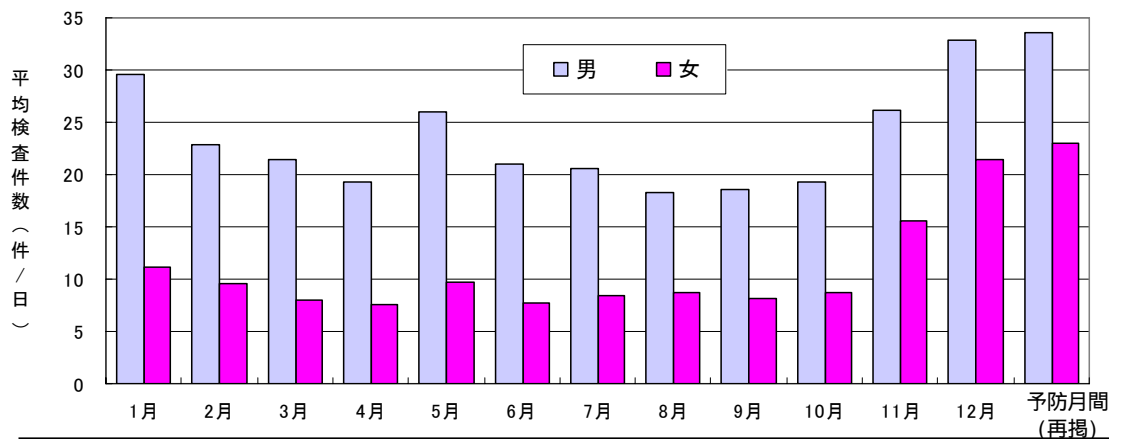
検査件数で見ると、全体的に男性は女性の約 2 倍であるが、10 歳代では女性の方が多く、20 歳代では男女 2 倍ほどの差はないが、30、40 歳代では男性は女性の約 5~9 倍である。陽性件数の多くは 20、30 歳代の男性で、特に、東京都南新宿検査・相談室の陽性件数が多い。都保健所及び東京都南新宿検査・相談室では、女性の陽性件数はなかった。

図-22
東京都の男性の
HIV 検査陽性率の
年次推移
(20,30,40 歳代、
平成 13 年～17
年)



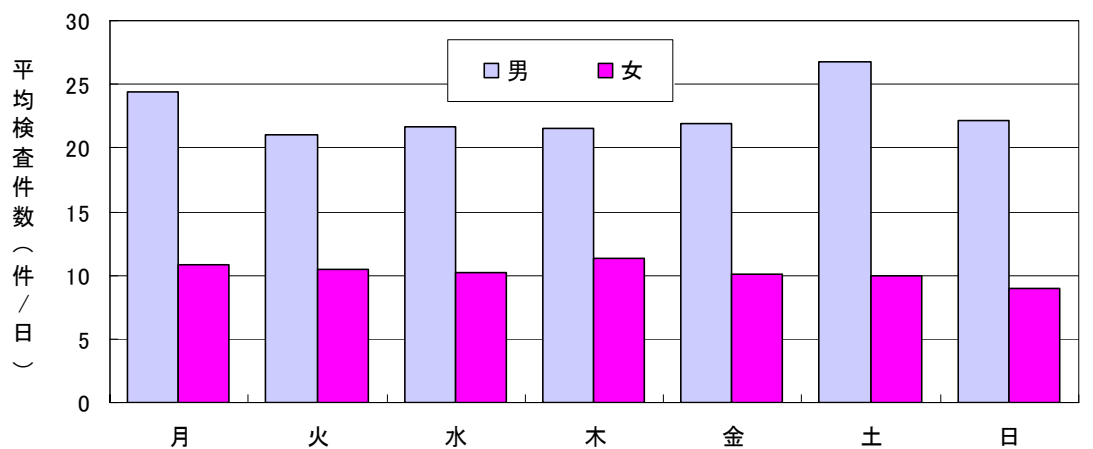
陽性件数の多い 20、30 歳代男性では、変動はあるものの、平成 16 年以降の陽性率は、区保健所では 0.4%以上、都保健所では 0.3%以上、東京都南新宿検査・相談室では常に 1.4%以上となっている。40 歳代の男性の保健所等での陽性率は、変動が大きく明確な傾向が見られないが、前年よりも減少傾向にある。

図-23(1)
東京都南新宿検査・相談室の 1 日当たりの平均検査件数 (平成 17 年、月別・性別)



8 月、9 月の検査件数が少なかったが、東京都エイズ予防月間の広報活動やマスコミ報道により、11 月以降の検査件数が増加し、特に女性の検査件数が伸びた。

図-23(2)
東京都南新宿検査・相談室の 1 日当たりの平均検査件数 (平成 17 年、曜日別・性別)



男性では、平日よりも、業務時間が短い土曜日の検査件数が多く、土曜日の検査ニーズが高いことが推察される。また、月曜日は、月により核酸増幅検査を実施していることから、検査件数が多い。女性は、平日と土曜日で大きな差がないが、日曜日の平均検査件数は、他の曜日より少ない。

ひとくちメモ
「東京都エイズ予防月間」;
世界エイズデー(12月1日)を中心とする1か月の11月16日～12月15日。
東京都では、この期間中広く都民を対象としたエイズに関する予防啓発を総合的かつ集中的に展開している。

3. 性感染症

表-4

都内の保健所、東京都南新宿検査・相談室での性感染症検査件数と陽性件数(平成17年)

ひとくちメモ

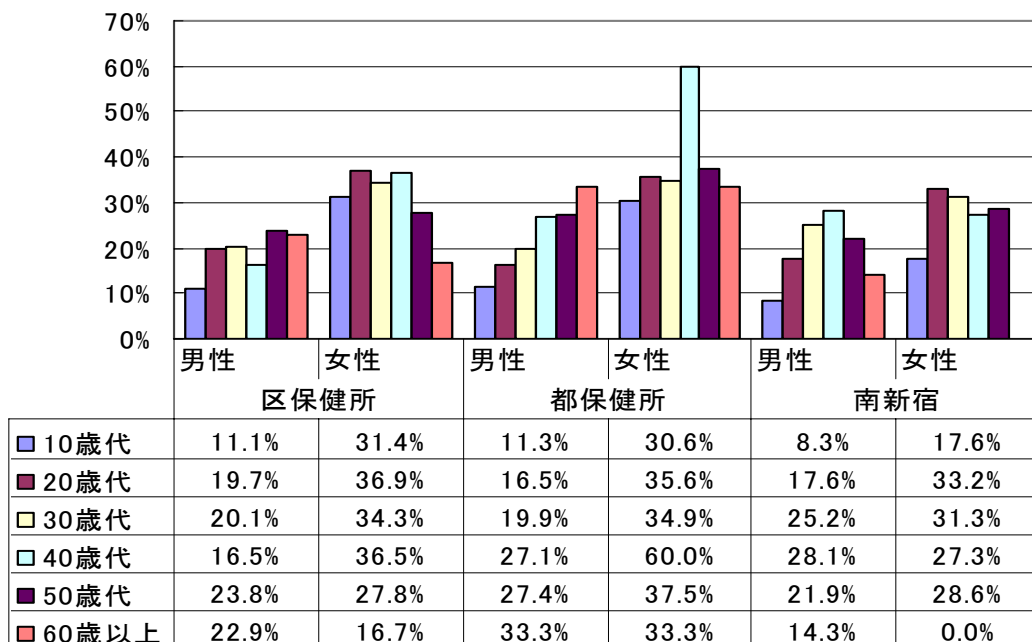
性感染症検査：多くの保健所では、HIV検査受検時に、希望者には、クラミジア・梅毒等の検査を実施している。東京都南新宿検査・相談室では、東京都エイズ予防月間の期間中1か月のみ性感染症(クラミジア及び梅毒)の検査を実施している。

		梅毒血清反応検査		クラミジア抗体検査			淋菌遺伝子検査	
		検査件数	陽性件数 (陽性率)	検査件数	IgA陽性件数 (陽性率)	IgG陽性件数 (陽性率)	検査件数	陽性件数 (陽性率)
区保健所	男性	3,125	60 (1.92%)	3,361	382 (11.4%)	575 (17.1%)	1,203	3 (0.25%)
	女性	2,081	5 (0.24%)	2,156	423 (19.6%)	684 (31.7%)	540	3 (0.56%)
都保健所	男性	1,864	18 (0.97%)	1,866	260 (13.9%)	302 (16.2%)	999	5 (0.50%)
	女性	1,077	4 (0.37%)	1,049	275 (26.2%)	332 (31.6%)	521	11 (2.11%)
南新宿	男性	997	20 (2.01%)	1,001	129 (12.9%)	181 (18.1%)		
	女性	688	3 (0.44%)	686	113 (16.5%)	197 (28.7%)		
合計	男性	5,986	98 (1.64%)	6,228	771 (12.4%)	1,058 (17.0%)	2,202	8 (0.36%)
	女性	3,846	12 (0.31%)	3,891	811 (20.8%)	1,213 (31.2%)	1,061	14 (1.32%)

梅毒の陽性率は男性で高く、淋菌の陽性率は女性で高かった。性器クラミジア感染症は、男女ともに、他の性感染症に比べ陽性率が高く、特に女性の陽性率が高かった。(各保健所から報告された件数であり、図-24に示す健康安全研究センターでの検査分とは一致しない。)

図-24

都内の保健所、東京都南新宿検査・相談室でのクラミジア抗体検査の年齢別陽性率



クラミジア抗体検査(東京都健康安全研究センター検査分)陽性率を性別・年齢別で見ると、区保健所での20、40歳代女性と、都保健所40歳代、東京都南新宿検査・相談室の20歳代の女性が高い。男女を比較すると、都内の保健所、東京都南新宿検査・相談室とも女性の陽性率が高い。

なお、IgA、IgGの両方またはいずれかが陽性の場合を陽性として計算した。

(検査機関; 東京都健康安全研究センター)

4. 世界及び全国のH I V感染者・A I D S患者数

世界のH I V感染者・A I D S患者(推計値)

(UNAIDS / WHO 2005年11月発表)

H I V感染者 (2005年末現在)	4,030万人 (3,670~4,530万人)
2005年における新規HIV 感染者数	490万人 (430~660万人)
2005年におけるAIDSによ る死亡者数	310万人 (280~360万人)

全国のH I V感染者・A I D S患者累計数

(厚生労働省 平成18年1月1日現在の速報値)

HIV感染者累計数	7,338
AIDS患者累計数	3,623
凝固因子製剤による感染者 (「血液凝固異常症全国調査」による2004年5月31日現 在の凝固因子製剤による感染者数)	1,435
平成17年HIV感染者報告数	778
平成17年AIDS患者報告数	346

発行：東京都福祉保健局健康安全室感染症対策課エイズ対策係

郵便番号 163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03-5320-4487 ファクシミリ 03-5388-1432 e-mail S0000312@section.metro.tokyo.jp

東京都南新宿検査・相談室 (無料・匿名・電話予約)

月曜日から金曜日まで 午後3時から午後8時まで、土・日曜日 午後1時から午後5時まで

電話予約制 03-3377-0811 (予約受付時間：月曜日から金曜日まで 3時30分から午後7時まで)

土・日曜日 午後1時から午後4時半まで、

なお、検査受付は、業務時間の30分前まで)

聴覚障害をお持ちの方のみ、ファクシミリでの予約申込みができます。

ファクシミリ 03-3377-0821

(予約受付時間：月曜日から金曜日まで 午後3時30分から午後7時まで)

土・日曜日 1時から4時半)

電話相談 電話 03-3292-9090

(月曜日から金曜日まで、午前9時から午後9時まで。土・日・祝日 午後2時から午後5時まで)

エイズに関する相談・検査(匿名・無料)は各保健所へ(一部、性感染症検査も同時に可能)